

新しい図書館を みんなで創ろう！



新しい図書館は、「亀山市立図書館整備基本計画」では、「多機能型図書館」をめざすものとしています。これまでも、「多機能型図書館」という方向性は、市広報や図書館市民ワークショップ、ニュースレターなどでもご紹介してきましたが、図書館における「多機能」とは、なかなかイメージが思い浮かばないとお声をよくいただきます。

現在の図書館に対して何が付加されれば「多機能型」となるのか、「多機能型図書館」になればどのような変化があるのでしょうか？

近年、他市町でも「多機能型」とされる図書館の整備が行われています。これらの事例の紹介しながら、「多機能型図書館について考えます。」

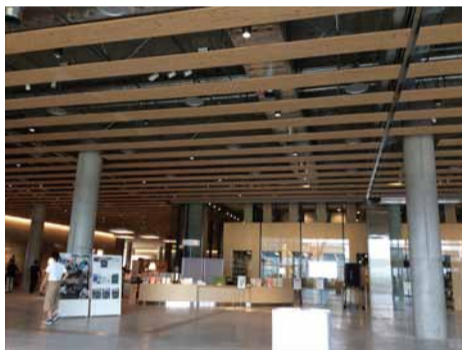
「多機能型図書館」の事例

各地の「多機能型」をうたっている図書館は、大きく二つのタイプに分けることができます。実際にはその多くが混合タイプで、タイプ分けは厳密に分けられるものではなくどちらの性格が強いといった視点となります。

【複合タイプ】

図書館と別の施設を同一、あるいは隣接して整備することで、図書館とそれ以外の機能の展開を図るものです。例えば、文化ホール、博物館、美術館などと併設することで、その地域の文化発信の拠点機能を持たせる、あるいは商業施設との併設によって地域活性拠点をめざすものです。

このタイプの場合、図書館自体、そのほかの施設は独立した存在となりますので、複数の施設がそれぞれの取り組みを行い、必要に応じて連携した事業を行うことで目的達成に向けた相乗的な効果を図るものです。厳密にどのようなものであれば複合タイプとするのかは難しいのですが、三重県立図書館、岐阜市メディアコスモス、などが挙げられます。



【複合タイプ】岐阜市メディアコスモスのホールと中央図書館内



【一体化タイプ】武蔵野プレイスのカフェと児童コーナー



【一体化タイプ】

単体の図書館の内部において、さまざまな機能も付加されているものです。複数の施設の合築というよりも、さまざまな機能を図書館に付加することで図書館本来の機能をより広くとらえ、その地域で図書館が果たす役割を一層高めていくことをめざすものです。

例えば子育てに関する相談コーナーや起業や地域ブランドの創出などのビジネス支援、観光や地域文化の発信などと、これらに関連する図書とを一体化させて、図書館が地域で果たす可能性をより多く引き出すものです。

複合タイプとの混合が多いのですが、安城市中央図書館（アンフォーレ）、塩尻市中央図書館（エンパーク）、武蔵野市立図書館（武蔵野プレイス）などが挙げられます。

亀山市における新図書館は、一体化タイプの「多機能型図書館」をめざします。

第6回図書館市民ワークショップ

平成30年9月2日（日）10:00～12:00に、亀山市総合保健福祉センター（あいあい）2階大会議室で開催しました。

「図書館のレイアウトを考える！～図書館の基本設計案について考えよう！～」をテーマに、現時点での新図書館のゾーニングに関する考えに基づいて、各機能の大まかな配置構成を確認し、亀山市ならではの「多機能型図書館」としての機能が担保されていることをみんなで意識することを目的としました。

まず市民ワークショップでは、配置や階層、ゾーニングについて現時点で基本的な方向性について説明を行いました。これは、グループワークを行う前提条件として、亀山駅前2ブロックの南側に独立して図書館の建物を配置し、その規模は延床面積3000㎡程度の3階建（一部4階建）、地下に駐車場を設置するものと想定しました。

また、ゾーニングの方針は、1階を賑わい、2階に親子やヤングアダルト、3、4階は落ち着いたゾーンとすることで、上階へ向けて「動から静」への空間創出を想定したものです。

各ゾーンでは、図書館の窓口と周辺施設との連携による子育て支援、郷土資料スペースにおける亀山市名誉市民の中村晋也氏の紹介など、さまざまな機能が一体となった「多機能型図書館」の実現をめざすものとしています。

なお、この考え方は議論のための前提条件としたもので、建築の詳細はこれからじっくりと検討を行ない、その検討を踏まえて案を導き出すものです。

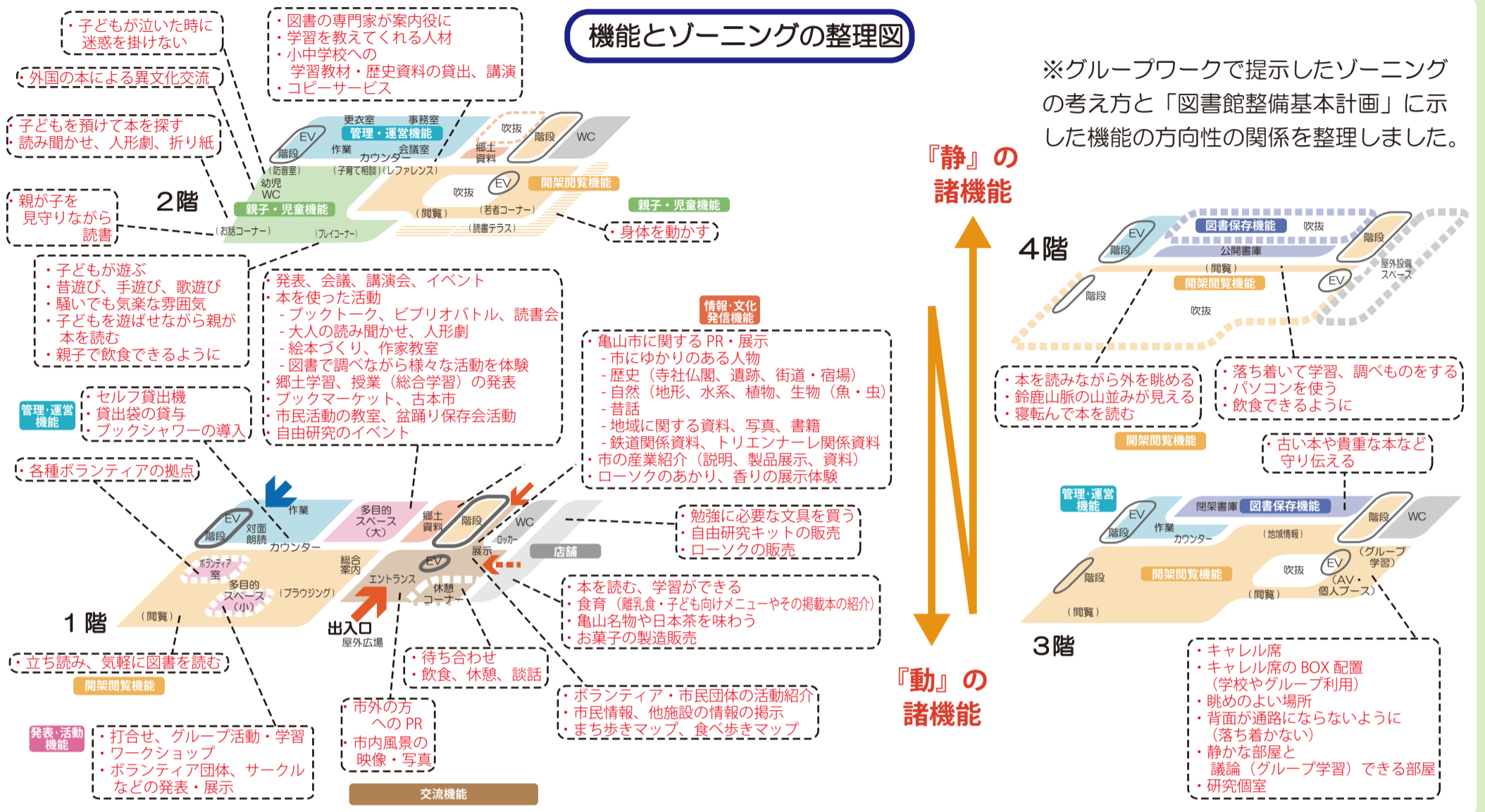
この前提のもとで、開架閲覧機能のゾーンにおいて周辺の付帯機能との関係性をみながら、どのあたりにどんなジャンルの図書があるとよいかをグループワークで意見を出し合っていました。



図書館の配置のイメージ（案）

グループワークの中で出された意見は、下のとおりですが、このような検討が図書館における亀山市らしさや、図書館の活動と密着したオリジナルの書架構成の実現につながっていくものとなります。

- 親子・児童のエリアに絵本、図鑑を充実
- 調べるための本は3階に
- 保存対象の本は4階に集約
- 学生が利用する本を学習室の近くに
- どんな人々がどのように利用するかを考える
- 新聞・雑誌は1階に
- 幼児が外へ出ていかにないように親子・児童のエリアは上の階に
- 郷土資料の観光的な要素のものは1階に、歴史資料は3階に
- ピアノを置かなければ音楽関係の本はその近くに
- 3階では利用の多い本を入口付近に
- 1階には読んでほしい本
- 多くの人が利用する1階には、文学、新聞雑誌、テーマ別おススメ本
- 2階には学生・子ども・若者向けのすべてのジャンル
- 3階にはすべてのジャンルの専門性の高いもの
- 広さのイメージがわからなかったが、本も持って人が移動する形態を想定



※このニュースレターで示した図はワークショップでの検討用に例示したもので、今後の検討により変更されることがあります。

中井先生のコメント

図書館全体のゾーニングと配架の関係は、ある意味で図書館の顔ともなるもので、極めて重要かつ難しいテーマだと思います。ただし、この部分は皆さんの意見だけではなく、図書館司書を核として図書館側がしっかりとした考え方を示していかなければいけないものです。そのうえでみなさんとそのプランを共有していくことが大切だと思います。

各地の注目図書館！

最近注目されている各地の図書館についてご紹介します。今回は、愛知県安城市の「安城市立図書館」です。

安城市立図書館は、昨年6月にオープンした JR 安城駅の近接地に整備された公共施設、ホール、民間商業施設などで構成される複合施設「中心市街地拠点施設「アンフォーレ」の本館内に所在します。図書館の面積は約 9,200 m²で建物の2階から4階を占めています。

蔵書数は 68 万 4 千冊を誇り、今年7月には入館百万人に達するなど、東海地方屈指の図書館のひとつです。

図書館には、証明・旅券窓口センター、カフェのほか、ビジネス支援、子育て支援機能が一体的に併設され、生涯学習拠点としての役割と従来の図書館サービスの提供に加え、新たな地域・市民ニーズへの必要性から、学びへの情報を提供し、その成果による多様な交流拠点としての役割が期待されています。亀山市の新図書館のめざす「多機能型」の先行事例として学びべき点が多い図書館です。

なお、一階のカフェでは地元産品を生かしたメニューが用意され、全館内での飲食が可能となっています。



安城市図書館情報館外観



一階ロビーとカフェ



子育て支援センター



ビジネス支援センター



安城市図書館情報館 HP

次回の図書館市民ワークショップ

次回のワークショップについては、日程内容が決定次第、市広報や図書館 HP などでお知らせします！

発行

亀山市 教育委員会事務局 生涯学習課
〒519-0195 三重県亀山市本丸町 577 番地
電話：0595-84-5057 FAX：0595-82-6161
メール：syougaku@city.kameyama.mie.jp

ワークショップアドバイザー

中井孝幸(愛知工業大学教授)
平成 30 年 9 月 30 日
新図書館整備事業ニュースレター
第 6 号